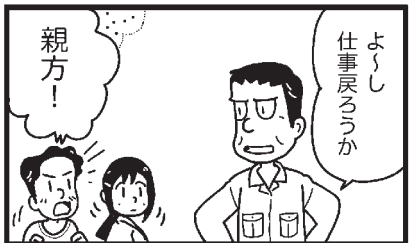


あかも!

あかも! (438)



賑やかな店構え。右上は看板メニューの麻婆豆腐

【江戸川・れんが・タイル・緒方光一通信員】船堀駅から北に徒歩10分、船堀グリーンロードの緑に囲まれた中にお店があります。店名の由来

中国料理
香々菜
都営新宿線船堀駅 徒歩10分

新・赤すようさん
私
の
行
き
つ
け

33

現場の桜が綺麗に咲いたので、昼休みに弁当とお茶でお花見をした

分会打ち上げで利用 食べ放題メニューに100品超

来年こそ満開の桜の下でどんちゃん騒ぎしましょう!

絶対やろう! どんちゃん騒ぎしよう! どんちゃん騒ぎ! お前ら騒ぎたいだけ?

黒酢豚 900円
五目チャーハン 750円
タンタンメン 800円
営業時間 11時～15時、17時～23時/定休日 なし
江戸川区松江5丁目8-2
芳賀マンション1F
03-3655-1688

部の記事もランチに通うほど居心地のよいお店です。ランチメニューは20種類から選べてリーズナブルで、分会の打ち上げで利用している食べ放題は、

2時間32分 80円、3時間40分 0円(共に税別、2人より利用可)、食べ放題のメニューが100品を超えるのでみんな大満足。店内は最大で38人が入り宴会もできます。

雰囲気は家庭的なお店ですが、実は本格的な中国料理のお店です。看板メニューの「本格石鍋四川麻婆豆腐」は、ピリ辛、中辛、激辛が選べます。他にも「牛の辛子煮」「油淋鶏」などなど沢山あって全メニュー食べ切れないんです。料理へのこだわりは、味はもちろん、食べる前の見た目の彩りや、食欲をそらせるいい香り。笑顔にさせてくれること間違いありません。

15種類もあるお弁当が600円(税込)なのでまずはお弁当で美味しい香りを味わってみてはいかがでしょう。《メニュー》※税別
本格石鍋四川麻婆豆腐 900円
黒酢豚 900円
五目チャーハン 750円
タンタンメン 800円
営業時間 11時～15時、17時～23時/定休日 なし
江戸川区松江5丁目8-2
芳賀マンション1F
03-3655-1688



忘れえぬこと

立石さんの温かい言葉と
マシユマロの様な手

建築事務 麻生嶋 初枝



以前、介護の仕事を始めて1年が過ぎた頃、事務所からもう1人介護訪問をお願いしたいと連絡がきました。2日後に立石さんという89歳の女性のお宅に訪問。色白でよくよかなお顔がえびす様みたいな、がっちりした体格の方で

たに君臨していたエメリア・エンコ・ヒョードル。ウクライナ生まれの彼だが、20年前の試合パンフに国籍はウクライナと記されたことに「私の国籍はロシア」と激しく抗議したらしい。

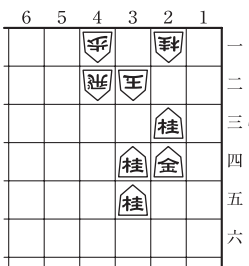
当時、モスクワで日本人記者が担当コーチにヒョードルのことを聞いた際、「あのウクライナ野郎ですか」と返事をされたという。他者には計り知れぬ深い溝が存在しているようだ。

たい手を温めてくれました。誰に対してもやさしさの気持ちを忘れない方でした。二人で松江に旅行に行った時には、松江城や宍道湖、出雲大社などを見て回り、最後にご両親の眠るお墓にお参りをした際、「私が死んだらあの両親が入っているお墓に入れてくださいね」といきなり言われて驚きました。

立石さんは、「ありがとう、会えてよかった」と言葉を残して103歳の大往生の人生を終えました。

立石さんとの日々、温かみのある言葉一つ一つが私にとって忘れられない人生の1ページとなり、私の人生の支えとなっています。東京から離れた松江のお墓で、立石さんは今ご両親とどんな話をしていくのでしょうか。いつの日か墓前に手を合わせに行こうと思っています。(三鷹武蔵野)

詰将棋



チヨット一服(1057)

NYの日本人ジャズピアニスト、海野雅威さんが差別、暴行を乗り越え、新しいアルバムを出したという。海野さんは2020年の9月、地下鉄通路でいきなり8人組の若者に襲われ、ピアノスト生命が脅かされるケガを負った。コロナ禍が武漢からもたらさ

れたと、アジア人へのヘイトクライムが横行していた。「中国人だ、やってしまえ」と聞こえたが、15分も続く暴行の中で自分は中国人ではないとは言わなかったという。ジャズを極めようとする中で、人種差別的愚かさ、無意味さを知っていたのだろう。そんな哲学が込められた演奏を、ぜひ聞いてみたい。



監督 ヴィットリオ・デ・シーカ

ひまわり

半世紀を経て尚咲き誇る抵抗の花

最近では抵抗の象徴となったひまわりはウクライナ

の国花だが、ロシアの国花でもある。放射能除去能力もあるといわれ、チェルノブイリ原発事故後研究がすすめられたこともあるが、はたして西国民の心のわだかまりもいずれ消し去ることができるのだろうか。一刻も早いこの戦争の終結を願うばかりである。

1970年公開の『ひまわり』は、ソフィア・ローレンとマルチェロ・マストロヤンニの競演が話題を呼び、日本でも大ヒットを記録したイタリア映画。2年前に公開50周年を記念して制作されたHDレストア版が全国公開された。本作は、第2次世界大戦中に互いを思いながらも戦火に引き裂かれた夫婦の悲しみを描いた、ヴィットリオ・デ・シーカ監督による反戦悲恋映画の不朽の名作。ロシアによるウクライナ侵攻を受け、平和を願う緊急上映の運動が日本全国に拡大しているという。厳しいソ連の戦線へ送られ行方不明になった夫のアントニオ(マルチェロ・マストロヤンニ)を探しに、手がかりもないまま単身ソ連へ渡る



ジョバンナ(ソフィア・ローレン)。有名なヘンリー・マンシーニの切な過ぎる主題歌に乗せて現れる、広大なひまわり畑の果てに待っていたのは…。

これまで舞台となったひまわり畑が撮影されたのはウクライナ南部のヘルソン州だとされていたが、ごく最近、中部にあるチェルニチー・ヤール村であることが判明。捕虜の犠牲などないと言張するソビエト指導部が、あえてイタリア兵の主戦場ではないヘルソン州を撮影場所に仕立て上げたのではと憶測を呼んでいる。

最近では抵抗の象徴となったひまわりはウクライナ

の国花だが、ロシアの国花でもある。放射能除去能力もあるといわれ、チェルノブイリ原発事故後研究がすすめられたこともあるが、はたして西国民の心のわだかまりもいずれ消し去ることができるのだろうか。一刻も早いこの戦争の終結を願うばかりである。